「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の記述式（国語）の実施イメージ【主なポイント】

資料３

【出題する問題の必須要件】

①評価すべき能力を適切に評価できる

②限られた時間の中で公正な採点が可能

③入学者選抜の材料としてふさわしい識別力がある

テクストの全体的な精査・解釈によって解答する問題だけでなく、それによって得られた情報を編集・操作して解答する問題とする必要

素材や設問が、解釈や解答の幅の狭いもの（答えができるだけ限定されるもの）

選抜性が高い大学も活用できる問題とする必要

①特に「論理（情報と情報の関係性」や「情報を編集・操作する力」を問うもの

②素材は、新聞記事・社説、会議等の記録、実務的な文章、統計資料（図表・グラフ）など

・文字数の多い問題は、短期間の採点が困難。

・50万人以上の採点の統一性確保が困難。

・大学側から、大学採点の負担や体制、日程等に関する意見あり。

・国公私立を通じて、多くの大学が利用可能な選択肢も用意する必要。

パターン1

・本文の内容を基に考えを文章化する問題（より深い能力を問う問題）

・大学の負担を考慮しつつ、フィージビリティ検証等を通じて明確化。パターン2より文字数の多い問題（例えば、80～100字程度の問題1問）を検討。
（中～高難易度）

センターが形式面を確認、各大学が採点

パターン2

・本文の内容を基に考えを文章化する問題（基盤的な能力を問う問題）

・フィージビリティ検証等を通じて明確化。短文記述式の問題（例えば、80字以下程度の問題）を検討（40字程度の問題を2問出題することも検討）。
（中難易度）

センターが段階別表示まで行う